

書架



『安心ミライへの
「資産形成」
ガイドブックQ&A』
三井住友トラスト・資産の
ミライ研究所 編著／
金融財政事情研究会 刊
1,400円＋税

の健康や相続などについてのイベントが現れる。このように本書では各世代が「自分ごと」として住宅ローン、年金、相続などの基礎知識や金融サービスを学べるようになっていく。

「人生100年時代」を迎え、老後に備えた資産形成をいかに進めていくべきか、関心が強まっている。しかし、その関心が一人ひとりの具体的な行動に結び付かないと意味がない。本書は、家計資産運用のプロたちが、個人の資産形成において学ぶべき金融面の基礎知識をまとめたものである。できるだけ多くの人が本書で示されたような金融リテラシーを共有し、実践的な資産形成に役立ててほしいものだ。

本書では、年齢層ごとにライフイベントが示され、その際に活用すべき金融サービスとどのようなものがあるか、丁寧に解説されている。例えば、20～50歳代は、結婚、出産、教育、住宅購入など支出系のイベントが続き、60歳代以上になると、

給与から年金への移行という収入面の変化とともに、自分自身

経済社会情勢の変化を踏まえた解説が提供されていることも本書の大きな特徴だ。例えば、いまなぜ「資産形成」マインドが大切なのかについては、人生100年時代の到来と、人生のマルチステージ化に伴って、資産寿命を延ばしていくことが必要であると説明されている。

さらに本書には、評者のようなエコノミスト的視点からいなくつかの興味深い論点が示されている。例えば、本書では、「家は買うべきか、借りるべきか」という問題が取り上げられている。評者は、「借りるより買った方が良い」という主張には経済学的な根拠はないと考えてきたのだが、読者はどう思うか。本書を読みながら、読者自身の経済常識を再点検してみるのも面白いと思う。

（日本経済研究センター理事・
研究顧問 小峰隆夫）